

令和六年度 自己評価結果公表シート

学校法人太田学園

認定こども園 岩手中央幼稚園・保育園

1 園の教育目標

『身近な自然環境に触れ、友だちと仲良く遊び、思いやりの心をもち、生きる喜びをはぐくむ。』を、教育方針とし、以下の7つを教育目標としている。

- 1, 教養を深め郷土を愛するこども
- 2, 健康で明るく 元気なこども
- 3, 自分のことは 自分でできるこども
- 4, 他人の話をよく聞き 自分の考えをはっきり言えるこども
- 4, 友だちにやさしくしたり 親切にできるこども
- 5, 何でもよく見 よく考えるこども
- 6, 情操の豊かなこども
- 7, のびのびと表現し 喜んで想像するこども

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって教育・保育の質を高め、保育教諭自らが客観的に自園を見る目を養い、保護者のニーズを確認することで、本園としてのビジョンを明確化し、認定こども園として今後担う役割について検討することを重点項目とする。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組内容
認定こども園教育・保育要領の精神を踏まえ、園の教育理念、教育方針にしたがい、子どもの実態などをもとに考えて作成している。	子どもの実態に即して作成することができ、各クラスでも工夫した保育内容を実践することができた。認定こども園2年目となり、来園度は年間計画の見直しを掛けながら改善していく必要がある。
教育・保育要領、子どもの実態などをもとに考え、作成し、学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	学期ごとに自己評価を行い、それぞれの教諭の課題改善に努め、生かしていくことができた。一方で月週案など提出の遅れがあり反省が残る。しかし、年度初めに退職やクラス担任の配置換えがあり、大事なスタートでつまづいてしまった点は大きな反省である。
保育者としての資質や能力、良識、適正など、教育の質の向上のために園内研修を充実させる。	例年行っている不審者対策・救命講習に加え、今年度は講義だけではなくワークを取り入れながら園独自の研修スタイルの工夫が出来た。それぞれの教諭の今の悩みや困り感をみんなで共有しながらよりよい保育方法を探っていく研修は有益だったと評価する。また研修を行うことで「明日の保育が変わる」をテーマに、学んだことを生かす意識づけができ

	たと感じている。
保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる	年度末に保護者向けのアンケートを行う。その結果を受けて園長はじめみんなで共有するなかで保護者の思いや改善点を明確にすることができた。苦情等は今年度はない。しかし、今後も常に保護者が話しやすい・相談しやすい園を目指してさらなる連携を図っていく。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価

新たな取り組みを取り入れながら、保護者のニーズに合わせたり探りながら教職員が共通理解をして計画や保育実践にあたることができた。個々が課題意識を高め、常に自己の保育を振り返り向上を目指すことができた点が評価される。

5 今後取り組むべき課題（教諭の反省から見えてきた今後の課題）

課 題	具体的な取り組み方法
園全体でのアレルギー対応のさらなる理解と環境づくり	食物アレルギーを保持する園児が2名いるが、まだまだ個々の教諭の意識が十分ではない面がある。園全体で共通理解と共通認識が必要であり、またどの教職員も同じように対応できなければならず、現状不十分であることは否めない。調理師によるアレルギー対応の研修も行ったが、さらに意識と知識を高めていく必要がある。
教職員間の良好な関係の構築と子ども優先の意識向上	今年度前半から、教職員間での気持ちのすれ違いや連携がうまく図れない事案が相次ぎ、大きな課題となった。人数が増えつつある職場環境の中で、人間関係の構築やささいなトラブルもあると思うが、そのことで保育に支障をきたしたり、保育が止まってしまうことは許されない。来年度は新任教諭が2名入るため、さらなる教職員間の連携を図っていく必要がある。
全体の役割機能を向上し、円滑に計画を進める	今年度、人員がギリギリな時期もあり、全体での行事等の準備など遅れが生じてしまった点があり反省する。計画は早くても遂行に至らなかったり、行うべき優先順位が異なった点も要因である。しかし、教職員間で楽しみながら準備を進められた姿はとても良かった。

園全体の計画等の見直し	来年度は認定こども園3年目になるため、年間の計画など見直しを掛けて改善していきたい。
-------------	--